

## 学 会 記 事

◎第3回理事会(昭.32.8.13)出席者:内海会長,篠原副会長,東,中安,高坂,国分,丸安,逸見,米屋の各理事。議事:1)7月中の行事その他報告,2)昭和32年度名簿発行計画について,3)秋のエキスカッションは田子倉または秋葉ダムのいずれか両案をたて次回決定のこと,4)第2回万国地震工学会議準備委員会に委員推薦について,5)会員バッジの材質を純銀文字金張りとする,6)抄録委員会委員の交代について(沼田 実一伊能忠敏,山口柏樹一佐藤吉彦),7)第4回大河内記念賞推薦について,8)会員入退会承認。

### ◎各種委員会

1. 第3回会誌編集委員会(昭.32.8.22)出席者:糸川,丸安正副委員長,奥田,安藤,三上,南(代),岡崎,武部,粟津,八十島,久保,尾形(代),後藤(東北)各委員,深谷幹事。協議事項:1)投稿原稿審査報告,2)原稿依頼状況,3)42巻10号登載論文を次のとおり予定,4)その他。

和久英雄・丹羽哲郎:井川ダム寒中コンクリート施工について,室町忠彦:粘性土におけるコーンの貫入抵抗と一軸圧縮強度との関係,尾崎義一:橋梁の高欄について,清水賢二:南極大陸に立ちて,広田孝一:地下水講座(第3回)一トンネルの地下水。

2. 第3回会誌編集小委員会(昭.32.8.9)出席者:糸川委員長,森委員,深谷幹事。協議事項:9月号編集につき最終的打合せを行った(76ページ)。

3. 第3回会誌抄録委員会(昭.32.8.2)出席者:八十島委員長,岩間,垣中,高橋,西沢,松本,堀井,丸山,湯浅,渡部の各委員,山口幹事。議事:1)9号の抄録4編を予定,2)抄録内規を検討,3)委員交代について。

4. 海岸工学用語小委員会(昭.32.8.3~5)出席者:白石,鶴田,岸(代木村),石綿,堀川,宇野木,中本,福地,有賀の各幹事。議事:第1日は総合審議,第2,3日はA,B2班で分担検討し,なお疑問点を討議し,追加すべきものは各自分担してなるべく早く堀川幹事の手許に提出すること。

5. コンクリート示方書改訂委員会主査会(昭.32.8.20)出席者:吉田委員長,国分,川口,畑野の各主査,樋口,深谷,関,伊東の各幹事。議事:示方書解説を完成させるための方針について審議し,大体明年1月中旬を目標とし,逐条原案を作製して検討することとした。

6. 第5回原子力土木技術委員会(昭.32.8.21)出席者:福田委員長,神谷,中安,逸見,近藤(代浜守),藤原,長山,篠原の各委員。議事:1)東海村原子力研究所の見学は10月を予定する,2)藤原委員から米国 SHIPPINGPORT原子力発電所および,英国オルダーマスト

ン原子兵器研究所における放射性廃棄物の処理,その他の資料によって講演し,質疑応答を行った。

◎昭和32年度夏季講習会(昭.32.8.28~30)の3日間,早稲田大学共通教室において今回は改訂された水理公式集と,海岸法にもとづく海岸保全施設設計便覧および世界大ダム会議日本国内委員会が制定したダム設計基準との3項目について講習会を開催した。いずれも水に関連した重要なことがらであるため,全国から聴講申込みが続々とふえ,28日早期から会場につめかけ,定刻にはほとんど参集したので,米屋理事開会を直し,内海会長登壇,講習会の趣旨と講師の御苦勞ならびに聴講者の熱意に敬意を表し,引続き予定のスケジュールに従って講習を進めた。

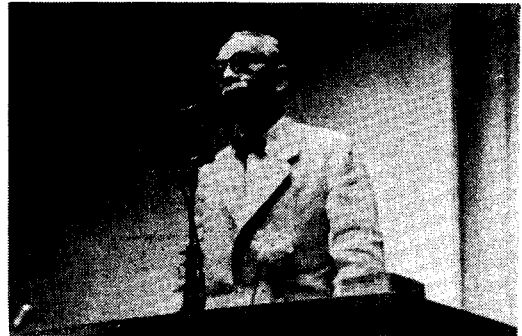
### (第1日)

- |                 |          |    |         |    |
|-----------------|----------|----|---------|----|
| 1. 水理公式集の改訂について | 東大教授     | 工博 | 本間      | 仁  |
| 2. 水理公式集 河川編    | 建設省土木研究所 | 工博 | 吉川      | 秀夫 |
| 3. 同上           | *        |    | 竹内      | 俊雄 |
| 4. 水理公式集 発電水力編  | 通産省審議官   |    | 市浦      | 繁  |
| 5. 同上           | 中央大学教授   | 工博 | 林       | 泰造 |
| 6. ダム設計基準について   | 電源開発 KK  | 工博 | 伊藤      | 令二 |
| 7. 映画(佐久間ダム第3部) |          |    | 電源開発 KK | 提供 |

### (第2日)

- |                    |         |    |          |    |
|--------------------|---------|----|----------|----|
| 8. 水理公式集 上下水道編     | 東京都水道局  | 工博 | 宮塚       | 良三 |
| 9. 同上              | 東大助教授   |    | 徳平       | 淳  |
| 10. 水理公式集 港湾編      | 運輸省運輸技研 | 工博 | 浜田       | 徳一 |
| 11. 同上             | *       | 工博 | 井島       | 武士 |
| 12. 海岸保全施設設計便覧について | 東大教授    | 工博 | 本間       | 仁  |
| 13. ~ 水理現象         | 農林省農地局  |    | 中本誠一郎    |    |
| 14. ~ 高潮防御         | 建設省河川局  |    | 有賀       | 世治 |
| 15. ~ 浸食対策         | 運輸省港湾局  |    | 白石       | 直文 |
| 16. 映画(上下水道,水源林)   |         |    | 東京都提供    |    |
| (テトラポット)           |         |    | フランス物産提供 |    |

写真—1 夏季講習会における内海会長の挨拶



写真—2 本間委員長の講演

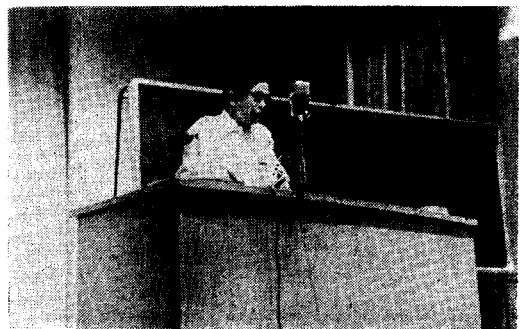


写真-3 満員の講習会場



本年は立秋が過ぎてから猛暑続きで2日ともに、暑さは厳しかったが、聴講者は終日熱心に受講し、第2日映画終了後、終講式を行い、内海会長から受講者代表の北海道開発局土木試験所 星野信治君に満場拍手のうち終了証書を授与したのち、同会長の終講の挨拶があつた。映画は今回の講習会にふさわしいもので一同に多大の感銘を与えた。聴講者の所属別内訳は次のとおりであつた。

建設省(都府县市)	252	通産省(電力会社)	81
運輸省(港湾)	62	建設業者	55
国鉄(私鉄)	10	農林省	16
学校	29	その他	7
		合計	512

(第3日) 見学会：夏季講習会の行事の一つとして本年はA, B, C, Dの4班に分れて見学会を催した。天候もちょうど絶好の見学日和で、それぞれ所定のコースで担当者の懇切丁寧な説明を得、一同予期以上の成果を収めた。ただ申込者が各班とも定員を突破してお断りした方が担当多かつたことは残念であつた。終りに東京都水道局および港湾局、運輸省第二港湾建設局、川崎市および横浜市、建設省土木研究所、電力技術研究所並びに日本ヒューム管KK、東京電力KK、東京瓦斯KK、三菱ふそう自動車KK当事者に、深甚の謝意を表する次第である。各班の参加人員は次のとおりであつた。

A. 東京・川崎および横浜各港	50名
B. 電力技術研究所	43名
C. 建設省土木研究所赤羽および篠崎水理実験所	60名
D. 東京都および川崎市長沢浄水場、日本ヒューム管KK府中および川崎工場	44名

写真-4 山下丸で港内を一巡(A班)



写真-5 東電新東京火力発電所にて(A班)

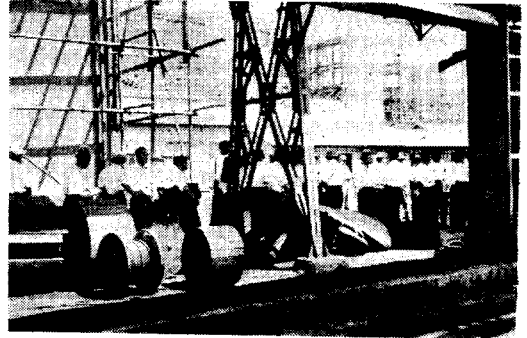


写真-6 このほど完成した電力技術研究所(B班)

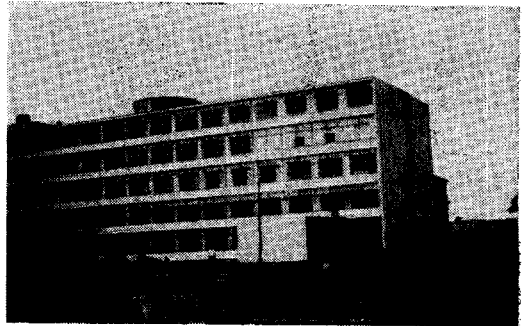


写真-7 篠崎水理実験所にて(C班)



写真-8 行徳可動セキにて(C班)

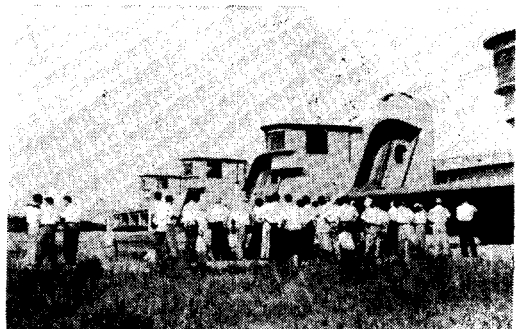


写真-9 工事中の東京都長沢浄水場全景



写真-10 東京都長沢浄水場完成予想図 (D班)

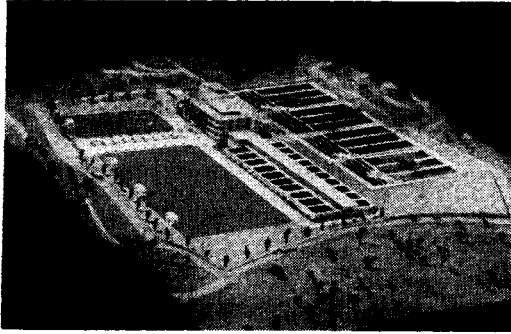


図-1 長沢浄水場一般平面図

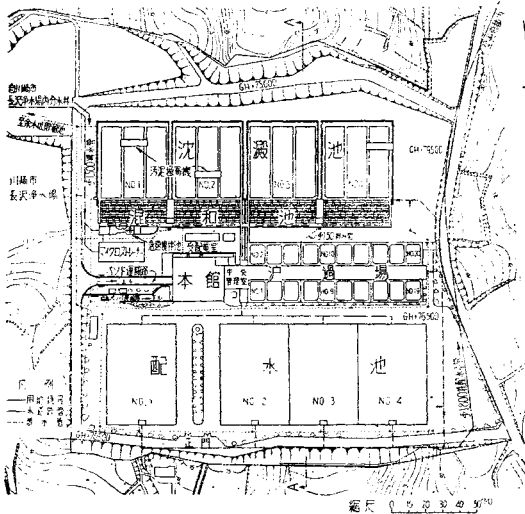


写真-11 日本ヒューム管KK川崎工場にて (D班)



◎夜の新東京観光 毎年好評を博したので今回も企画したところ、参加者 68 名の多数に上り、29 日講習会終了後 5 時 30 分会場前でハトバス 2 台に分乗し、神田鮎亀で夕食をとり、両国橋、吾妻橋を渡り浅草観音を車中よ

り拝し、国際劇場で夏のおどりを viewing、上野に出て、万世橋、銀座を通り日劇ミュージック・ホールでショーを満喫し、再び銀座に出て、クインビーでショーや音楽などを楽しみ、10 時東京駅で散会した。終始案内嬢の歌入り名調子な説明に一同大満足であつた。

◎その他

1. 夏季講習会講師打合せ (昭.32.8.14) 出席者: 米屋理事, 本間, 吉川, 竹内, 市浦, 林, 岩塚, 徳平, 井島, 中本, 有賀, 白石の各講師。議事: 1) 各講師に出版した水理公式集を贈呈し, 会長に代つて米屋理事から挨拶ののち, 本間委員長から各講師の分担および所要時間を確認し, 当日の詳細な打合せを行つた。なお海岸保全施設設計便覧は印刷中のため校正刷で打合せた。

2. 宇部興産KKに対しフライアッシュ共同試験に参加方勧誘中のところ, 8 月 3 日付で辞退したい旨回答に接した。

3. 毎日新聞社から 1957 年度毎日工業技術賞の受賞候補推薦方照会に接した (締切期日: 8 月末日)。

◎日本学術会議および関係学協会の動き

1. 日本学術会議地震懇談会打合せ (昭.32.8.8) 出席者: 武藤, 竹山, 岡本の 3 委員, 学術会議から竹下次長および関本総務部長, 内海, 米田, 天埜, 藤井, 西松 (以上土木), 佐藤, 北沢, 石井, 松田 (以上建築) の諸氏。議事: 武藤氏から経過報告あり土木, 建築両学会に対し強力な援助方要請があつた。去る 7 月 25 日第 131 回運営審議会で決定した要項は次のとおり。

記

1. 会議名: 2nd World Conference on Earthquake Eng. 第 2 回万国地震工学会議
2. 主催: 日本学術会議
3. 協力学会: 土木学会, 日本建築学会, 地震学会 (順序不同)
4. 主 題: (1) 地震性状 (2) 地震と地盤性状  
(3) 地震と構造物 (4) 地震被害報告  
(5) 地震設計
5. 会 期: 1960 年 8 月 30 日~9 月 4 日 (6 日間, 研究発表 5 日, 北沢地 1 日)
6. 場 所: 東京都
7. 参加者予定数: 国外 約 30 万国 50 名  
国内 300 名

2. 日本水道協会では 10 月 16 日より 3 日間総会を開催するについての案内に接した。

3. 日本建築学会, 日本建築士会連合会では 8 月 23 日から札幌市で連合大会を開催し, 同 25 日午後 5 時半からグランドホテルで, 懇親会を開催するとの案内に接した。

4. 日本生産性本部では 8 月 23 日大手町産経会館国

際会議場で「西ドイツ労働組合幹部特別講演会」を開催した。

## 支 部 だ よ り

1. 中部支部 年次大会を10月19日(土)開催する予定との報に接した(別掲お知らせ欄参照)。

2. 関西支部 主事 中川辰夫君は大阪市生野区長に栄転されたので、後任主事として片山信雄君(旧内務技師、前大阪府技師)を委嘱した。見学会(昭.32.7.30)参加案内106名を得て、30日午後3時半国鉄三の宮駅前をバスで出発、神戸製鋼所埋立工事、六甲ドライブウェイ、六甲観光牧場等を見学、カンツリーハウスで夕食後9時三の宮駅前解散、有意義であつた。コンクリート標準示方書説明会(昭.32.8.23)全建近畿地区連合会の協賛を得て大阪市中央電気倶楽部において440人の会員を集め、午前10時より午後5時15分まで熱心な聴講が行われた。講師は次のとおりである。特別講演(京大 近藤泰夫)、無筋コンクリート(京大 岡田 清)、鉄筋コンクリート(国鉄 川口輝夫)、コンクリート舗装(京大 近藤泰夫)、ダムコンクリート(電研 関 慎吾)

3. 中国四国支部 幹事会(昭.32.8.26)出席者: 庄司支部長、和仁幹事長、山本新幹事長、網干、森垣、菅井、水田、熊崎、津野田の各幹事、市政書記。議事: 1) 新幹事長委嘱について、2) 支部規約改正について、3) 役員会開催について。支部所在地変更: 広島市小町33 中国電力KK土木部内。幹事交代: 和仁幹事長辞任につき後任として山本三男君(中国電力KK土木部)を委嘱した。

支部評議員改選 (支部長) 庄司陸太郎、(常議員) 秋草 勲、西村敏男、佐々木統、庄司陸太郎、(評議員) 横田周平、三宅静太郎、石井謙、有馬博雄、八島 忠、穂積健茂、児玉芳夫、木村弘太郎、富谷 敏、和仁達美、藤原 孝、杉 知也、阿部勇祐、庄司陸太郎、加賀美一二三、星 治雄、津下修一郎、近藤正雄、小沢章三、内林達一、江藤 礼、岡野一、斎藤武幸、金津尚一、秋草 勲、西村敏男、(幹事長) 山本三男、(幹事) 網干寿夫、水田充喜、熊崎 博、津野田泰彦、森垣常夫、(編集委員) 網干寿夫。

4. 西部支部研究発表会および見学会(昭.32.7.15~16 両日、雲仙および長崎市において) 研究発表会は下記プログラムにより7月15日、雲仙ホテルのホールで行つた。

開会の辞	幹 事 長	吉川 吉三
挨拶	支 部 長	田中 寛二
歓迎の辞	長 崎 県	土木部長
	運輸省新潟港	布施敬一郎
	博多港	○内田 哲郎
	博多港	平井勝彦夫
銘および錯簡の把持力について		

橋台安定工法の 2, 3

P.C合成桁の実験的研究について

重力ダムの対震性について(特に動水圧の影響)

北九州臨海地帯貨物流動について

阿蘇山の山崩れについて

沈殿池流入滞の設計について

粒体の詰込みに関する研究

日本西部における降雨性について(第6報)

破壊したコンクリート舗装の現状分析

山須原発電所増設にともなうサージタンク連絡に関する試験報告(第2報)

立坑周辺の応力状態について

門司プレバクトコンクリート工事について

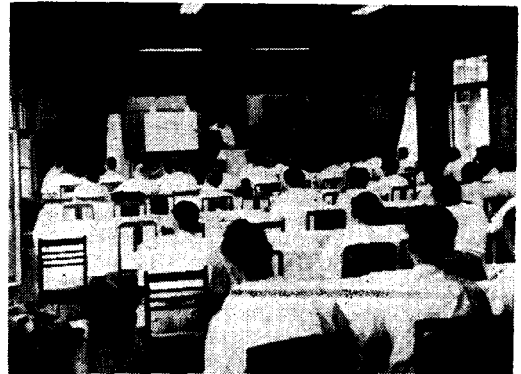
筑後川上流部の出水解析について

筑後川の洪水波変化について

閉会の辞

九州地建佐賀工事	井 月夫
九州大学	水野 高明
九州鋼鉄コンクリートKK	○波辺 明
	吉村 義昭
九州大学	小坪 清貞
第四港建	福田 伸男
熊本大学	藤田 謙孝
九州大学	田中 吉郎
	○遠山 啓
九州大学	水野 高明
	○徳光 達浩
宮崎大学	川上謙太郎
	○石黒 政儀
九州地建	建道 平野 巖
肥前国	宮崎大学
	川上謙太郎
	○吉岡 益男
熊本大学	川本 昌方
運輸省門司港	野尻 徹郎
九州大学	篠原 頼彦
	○上田幸吉
九州地建筑後川	野島 虎治
幹 事	日向野長世

写真-12 西部支部研究発表会場



当日はまだ梅雨の気候が去らず下界は非常にむし暑い気候であつたが、雲仙は涼しい気温で約100名余の参加者が熱心に聴講した。夕方研究発表会終了後、当日開通式を挙行した仁田峠一妙見嶽間のロープウェイを見学し仁田峠より有明海、阿蘇の遠望を楽しんだ。

翌16日はバスで本年5月末に開通した道路公団の雲仙有料道路の見学し、長崎市に直行し、長崎市の観光船で長崎港内を巡航し、三菱長崎造船所に上陸、同所内を見学し同日午後1時30分散散した。商議員会(昭.32.7.16)出席者: 兼重(代坂田)、鷲崎、吉田、斎藤、河村、長谷川、篠原、川上、宮子の各商議員、吉川幹事長、佐波、日向野両幹事。議事: 1) 昭和28年西日本水害調査報告書複製配布、精算等に関する中間報告、2) 今年度支部事業計画。

昭和32年9月10日印刷

印刷者 大沼正吉

編集兼発行者 中川一美

定 価 100 円

昭和32年9月15日発行

印刷所 株式会社 技報堂 東京都港区赤坂溜池5番地

発行所 社団法人 土木学会 東京都新宿区四谷一丁目(外濠公園入口)

振替 東京 16828 番

土木学会誌 第42巻 第9号

電話 (35) 5130・5138・5139 番

# 森北出版株式会社

東京都千代田区神田小川町3の10 振替東京34757番

工博 岩崎富久・田中寅男 共著

## 衛生工学

A5 420頁 函入 価 800円 千 50円

経験豊かな二人が協力して、土木工学と公衆衛生の両面から、上水道と下水道の構成、維持、管理、設計・施工等の学理と實際を、豊富なデータと明瞭な図・写真を駆使して詳しく説き明かしたものである。この方面の新進技術者及び学生諸氏の必読書。

安部 清孝 著

## 増補改訂 実用フーリエ級数

B6 328頁 函入 価 380円 千 40円

電気、機械、土木、建築等の実際の技術上の問題に現われてくる色々な函数を、フーリエ級数並びにこれと同類の直交函数系による級数によっていかに展開するかということ为例題で説明、その展開結果を實際の応用具体例で詳説した。技術者の好参考書。

工博 小野竹之助 著

## 増補改訂 コンクリート工学

—— 材料篇 ——

A5 464頁 函入 価 680円 千 50円

「コンクリート標準示方書」の改訂に準じて内容を増補改訂したもので、コンクリートの原料・密度、応力以外による変形、応力による変形、耐久力等を学理と実地の両面から詳述したもの。

山口貫一・柳内 彰 共著

## 安全工学

A5 204頁 函入 価 320円 千 40円

本書は前・後編の2編からなり、前編には安全工学の理論および安全運動の歴史的発展について述べ、後編には「安全とはいかなるものか」を現場の実際例をもって説明したもので、災害防止の具体的方法を示唆した。広汎な技術人諸氏の一読すべき文献。

名誉員	谷口 三郎 君	港区麻布本村町 225	昭和 32年 8月 13日 逝去	享年 72才
正員	佐土原 勲 君	世田谷区世田谷3の 2082	昭和 32年 8月 25日 逝去	享年 59才
正員	永山 彌次郎 君	鹿児島県始良郡吉松村 麓		
正員	中野 深君	鎌倉市小町 357	昭和 29年 逝去	
正員	遠矢 亀吉 君	杉並区天沼2の 408	昭和 32年 5月 25日 逝去	享年 66才
正員	杉 享君	松山市樽味町 松山農大公舎	昭和 32年 7月 31日 逝去	享年 48才
正員	福田 雄二 君	札幌市南9条西 14丁目	昭和 32年 8月 4日 逝去	享年 37才
准員	岡 聰 君	甲府市朝気町 1	昭和 32年 3月 17日 逝去	享年 22才

### 会 員 現 在 数 (昭.32.8.31.現在)

名誉員	賛助員	特1級A	B	C	特2級	特3級	正員	准員	学生員	合計	増加
22	30	10	8	63	102	98	7064	5034	1196	13627	27

### 昭和 32 年 8 月分入退会報告 (昭.32.8.1~8.31)

- 入 会 39名 (正 15, 准 16, 学生 2, 特1A1, 特1C2, 特2級2)
- 退 会 12名 (名誉員 1, 正 9, 准 2)
- 転 格 21名 (准より正へ 3, 特 1 より特1Bへ 1, 特1Bより特1Aへ 1, 特3より特1Cへ 3, 特3より特2へ 8, 特2より特1Cへ 5)